

## 水素社会の実現に向けて 燃料電池バス運行開始

中部国際空港株式会社は、地球温暖化の一因である温室効果ガスの削減という世界規模での喫緊の課題に対し、「セントレア・ゼロカーボン2050」を宣言して、空港関係者一丸となって、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロの実現に向けた取り組みを推進しております。さらに、2023年12月には、「中部国際空港脱炭素化推進計画」の国土交通大臣認定を受け、具体的な目標に向けた着実な取り組みを進めているところであります。

このたび、その取り組みの一環である水素社会の実現に向けて、燃料電池バスを導入し、第1ターミナル(以下、T1)アクセスプラザと第2ターミナル(以下、T2)の連絡バスとして初めて活用することとなりました。

バスの導入事業にあたりまして、環境省の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金及び愛知県の先進環境対応自動車導入促進費補助金並びに、三菱UFJフィナンシャル・グループ4社(\*)から寄付金を受けております。

今後さらなる旅客数の増加を見込む中、中部地域の玄関口としての役割を果たすべく利便性の高い空港を目指すとともに、脱炭素化の着実な推進に向けて努めてまいります。

\* 株式会社三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ証券ホールディングス株式会社、アコム株式会社

### ■燃料電池バス概要

運行開始日 : 2024年1月30日(火)

運行スケジュール : 毎日 5:35~14:00

ターミナル間連絡バス自体は 5:35~22:50 の概ね 15 分間隔で運行。

燃料電池バス運行時間外の 14:00~22:50 は現行のディーゼルバスで運行。  
(運行スケジュールは変更となる場合あり。)



【燃料電池バス走行ルート】



【外観デザイン】



※ターミナル間連絡バスは2023年5月から運行しており、本件はそのバスに燃料電池バスを導入するもの。

## 《参考》 燃料電池バスのしくみ

高圧水素タンクから供給される水素と大気中から取り込んだ酸素が、FC スタック内で電気化学反応により発電し、その電力でモーターを回すことにより、燃料電池バスは走ります。そのため、燃料電池バスは排出ガスを出さない環境にやさしいバスであると同時に、大きな車体にも関わらず、滑らかな加速と静粛性も兼ね備えています。

### 高圧水素タンク

燃料となる水素を蓄えるタンク。公称使用圧力は高圧の70 MPa(約700気圧)。世界トップレベルのタンク貯蔵性能を達成し、軽量・小型化を実現。タンク貯蔵性能：5.7 wt%



### FCスタック

トヨタ初の量産型燃料電池。小型化と世界トップレベルの出力密度を実現。体積出力密度：3.1 kW/L  
最高出力：114 kW (155 PS) ×2

### モーター

FCスタックで作出した電気と駆動用バッテリーからの電気で駆動するモーター。  
最高出力：113 kW (154 PS) ×2  
最大トルク：335 N・m (34.2 kgf・m) ×2

出典:トヨタ自動車(株)FCVパンフレット